

2023/01/18 地域づくり加速化事業 ブロック別研修会(東北厚生局)

地域支援事業の連動性を意識する

～ Team Tohokuの繋がり・悩みと気づきを共有しましょう!! ～

伴走的支援アドバイザー
櫻井 健太郎

自己紹介

氏名：さくらい 櫻井 けんたろう 健太郎

職種：理学療法士(医療法人社団脳健会 仙台東脳神経外科病院)

(2006年4月～2008年3月 葛西循環器脳神経外科病院)

【職能団体関連】 一般社団法人宮城県理学療法士会 理事(事業局長)
宮城県リハビリテーション専門職協会 理事(事務局長)

【認定取得関連】 3学会合同呼吸療法認定士
公益社団法人日本理学療法士協会 地域包括ケア推進リーダー
公益社団法人日本理学療法士協会 地域ケア会議推進リーダー
公益社団法人日本理学療法士協会 フレイル対策マネジャー
公益社団法人日本理学療法士協会 協会指定管理者(初級)
公益社団法人日本理学療法士協会 介護予防都道府県コーディネーター(宮城県担当)
公益社団法人日本理学療法士協会 地域包括ケアシステム担当(宮城県担当)
公益社団法人日本理学療法士協会 職能関連担当者(宮城県担当)

【その他】 宮城県市町村広域支援アドバイザー(2017年 厚生労働省介護予防活動普及展開事業)
みやぎ健康支援アドバイザー (2020年～ 宮城県フレイル対策市町村サポート事業)
伴走的支援アドバイザー (2022年 厚生労働省介護予防活動普及展開事業・地域づくり加速化事業)
仙台市フレイルトレーナー (2022年～ 仙台市市民協働フレイルチェック事業)

【所属学会】 公益社団法人日本理学療法士会会員
一般社団法人日本呼吸ケア・リハビリテーション学会会員
特定非営利活動法人日本心臓リハビリテーション学会会員
一般社団法人日本集中治療医学会会員

タイムスケジュール

13:35～14:15 (40分) : 講演

14:15～14:25 (10分) : 休憩

14:25～16:15 (110分) : ワーク

16:15～16:25 (10分) : 全体総括

16:25～16:30 : 事務連絡

本研修に関する導入

- 介護予防・日常生活支援総合事業が8年目を迎え、それぞれの地域で、医療・介護の専門職、住民、企業などの連携・協働による多様な取組が進んでいます。
- 一方、人事異動やマンパワー不足でこれ以上のことはできない、今まで取り組んできたからこそその行き詰まりを感じる市町村もあります。
- 本事業では、市町村の自主性を大切にしながら、アドバイザーを中心とした支援チームとともに関係機関・関係者などと対話を繰り返しながら【あるべき姿】に向かって、多様な関係者と「つながる」、そして互いのさまざまな活動を「知る」、そのうえでともにできることを考えるなどのプロセスを通して、新たなアイデアが「生まれる」ことを目指します。



■総合事業は単なる事業ではない

市町村が主体となって企画立案するもの（従来どおり）



住民も含めた地域全体で高齢者のより「良く生きる」を応援するもの

多様な価値感を持つ高齢者のニーズに把握・対応するのは、大変難しいことだからこそ、総合事業を動かすには「行政」だけが背負うのはNG！

→地域の多様な主体や地域住民それぞれの創意工夫のもとでの「共創」が必要

だからこそ…

■これまでの行政の価値感・手法だけではうまくいかない



- ▶行政が主導しようとはがんばりすぎるあまり、必要な相手とつながることを妨げたり、つながればいい相手に気づけない
- ▶課題解決のために新しい事業を作ろうとするが、
 - ・ユーザーである高齢者が求めているものとのズレ
 - ・地域住民を含めた関係者との合意形成が足りないことや、行政が今そこにある資源に気づけていないこと
- ▶で、その事業の魅力や価値の低下につながりやすい

→市町村の思いが実現できず行き詰まりや閉塞感を感じることに繋がりがやすい

本研修に関する導入

- ・行政と関係者がつながるためのコーディネートをします！
- ・自分達では気づかなかった地域のストレングスを見つけます！
- ・そのため市町村の皆さまも含めた地域の関係者どうしの共感・合意形成・納得を得る対話を重視します！



この対話を繰り返すことで
地域の関係者のモチベーションアップと
地域の関係者の共創によるプロジェクトデザインを
お手伝いできると思います！

Well-being



本研修に関する導入



より、“地域”が、“住民”が
元気になれる仕組みづくりを行うための悩み

⇒ 『課題≠ネガティブ』

一人の悩み＝みんなの悩み



関わるメンバーと対話する

お互いに共有し合う



解消するヒント(閃き)が生まれる

事業を実施すると見えてくる悩み事

自立支援型のケア会議は立ち上がった!!

けど、その先どうなっているの!?会議はこれで良いの!?

認知症初期集中支援チームが出来た!!

けど、本当に対象者や家族は安心した生活できてる!?

短期集中Cのサービスができた!!

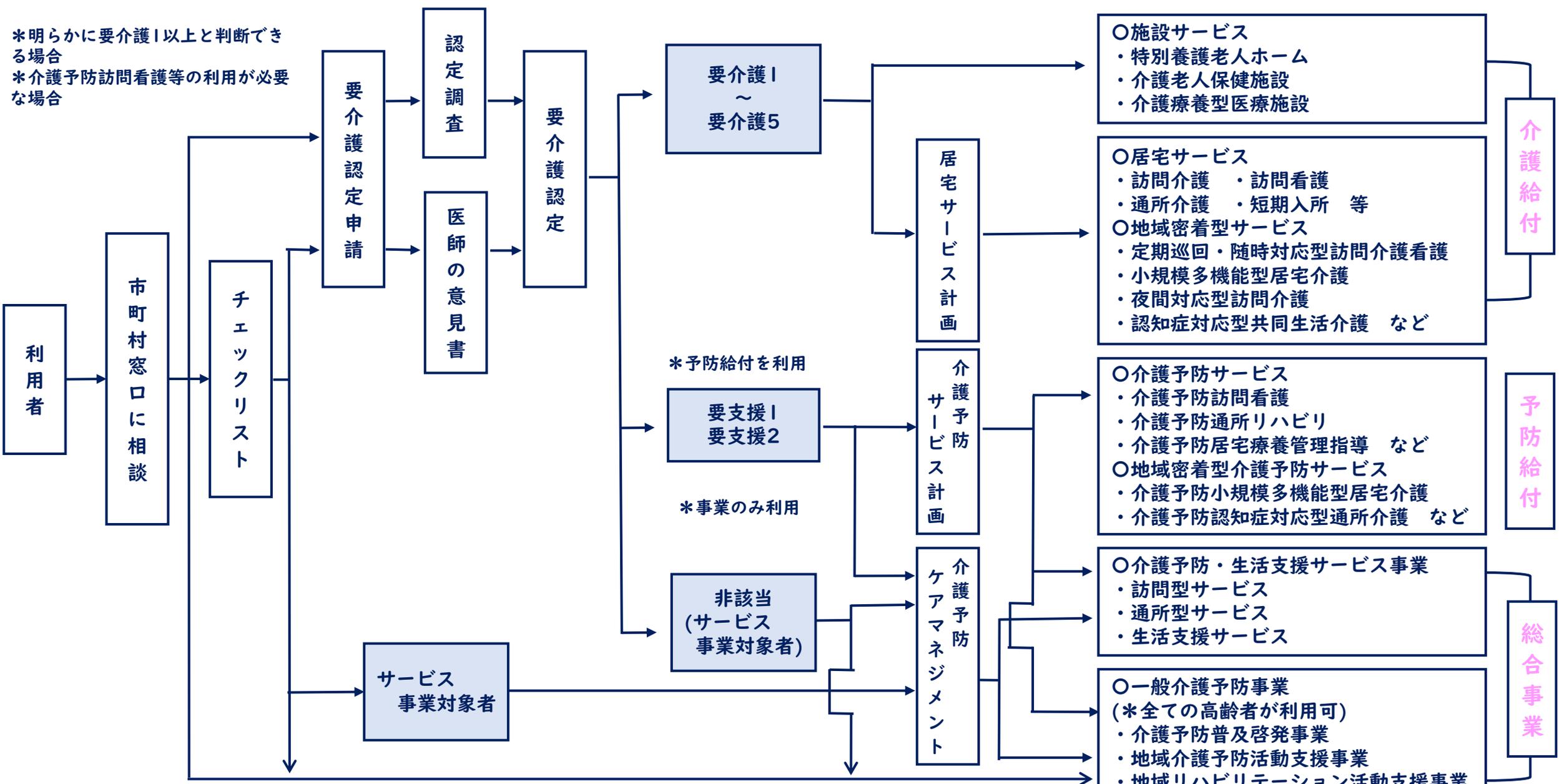
けど、リピーターが多くない!?短期集中になってる!?

事業と事業の連動性って・・・!?



介護サービスの利用の手続き

*明らかに要介護1以上と判断できる場合
 *介護予防訪問看護等の利用が必要な場合



*明らかに介護予防・生活支援サービス事業の対象外と判断できる場合

介護予防・日常生活支援総合事業の構成

介護予防・日常生活支援総合事業
(新しい総合事業)

介護予防・生活支援サービス事業

- (従来の要支援者)
- ・要支援認定を受けた者(要支援者)
- ・基本チェックリスト該当者(介護予防・生活支援サービス対象事業者)

一般介護予防事業

- ・第1号被保険者の全ての者
- ・その支援のための活動に関わる者

訪問型サービス
(第1号訪問事業)

現行の訪問介護相当

①訪問介護

多様なサービス

- ②訪問型サービスA(緩和した基準によるサービス)
- ③訪問型サービスB(住民主体による支援)
- ④訪問型サービスC(短期集中予防サービス)
- ⑤訪問型サービスD(移動支援)

通所型サービス
(第1号通所事業)

現行の通所介護相当

①通所介護

多様なサービス

- ②通所型サービスA(緩和した基準によるサービス)
- ③通所型サービスB(住民主体による支援)
- ④通所型サービスC(短期集中予防サービス)

その他の生活支援サービス
(第1号生活支援事業)

- ①栄養改善の目的とした配食
- ②住民ボランティア等が行う見守り
- ③訪問型サービス、通所型サービスに準じる自立支援に資する生活支援(訪問型サービス・通所型サービスの一体的提供等)

介護予防ケアマネジメント
(第1号介護予防支援事業)

- ①介護予防把握事業
- ②介護予防普及啓発事業
- ③地域介護予防活動支援事業
- ④一般介護予防事業評価事業
- ⑤地域リハビリテーション活動支援事業

*上記はサービスの典型例として示しているもの。
市町村はこの例を踏まえて、地域の実情に応じた、サービス内容を検討する。

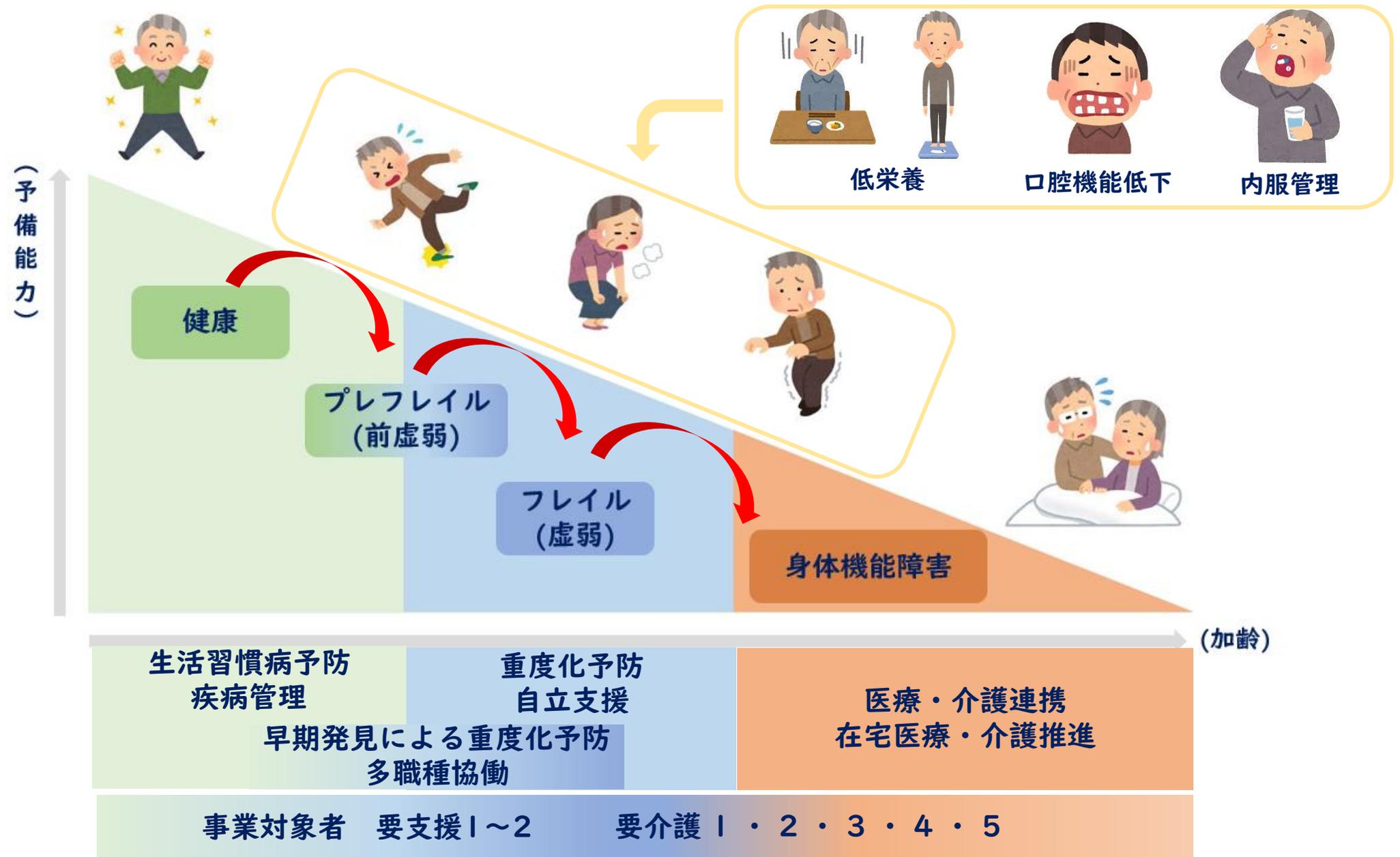
地域支援事業＝手段（多様な手段が準備されている）

数ある地域支援事業＝1つの手段(手段は多様)

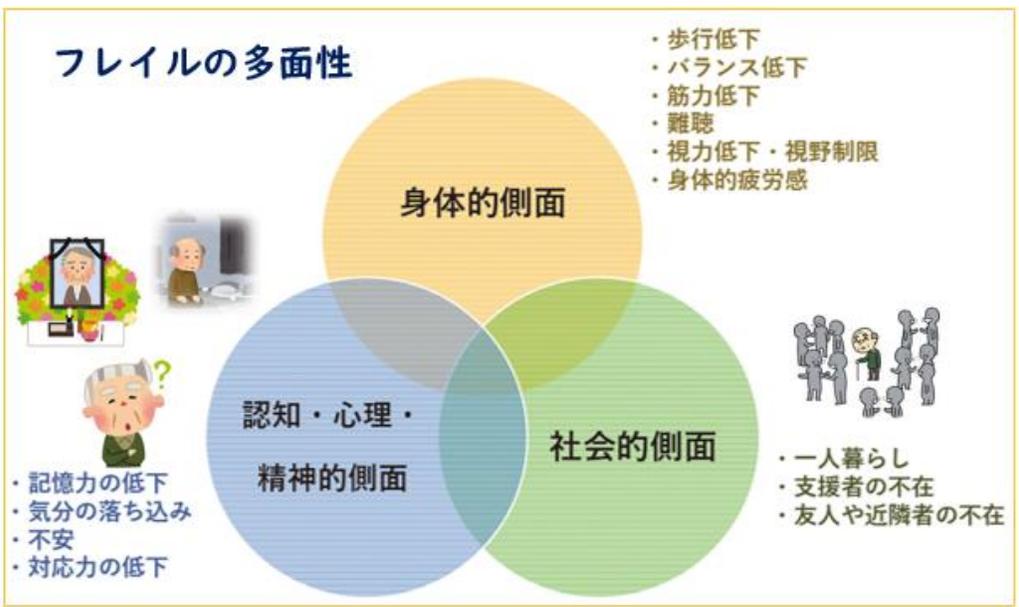
↓ (何の手段か!?)

住民を元気にするため
地域のありたい姿を達成するため

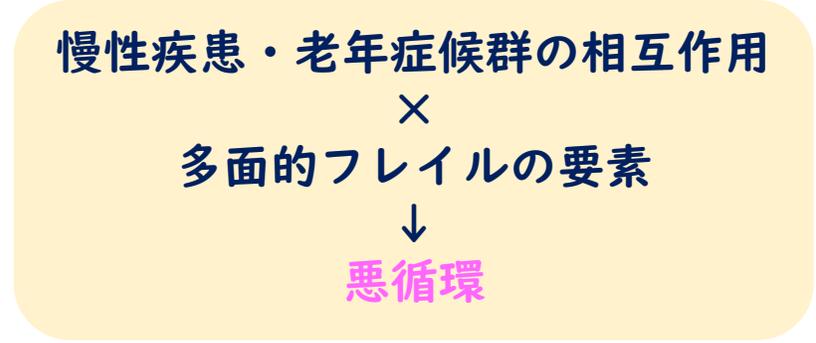
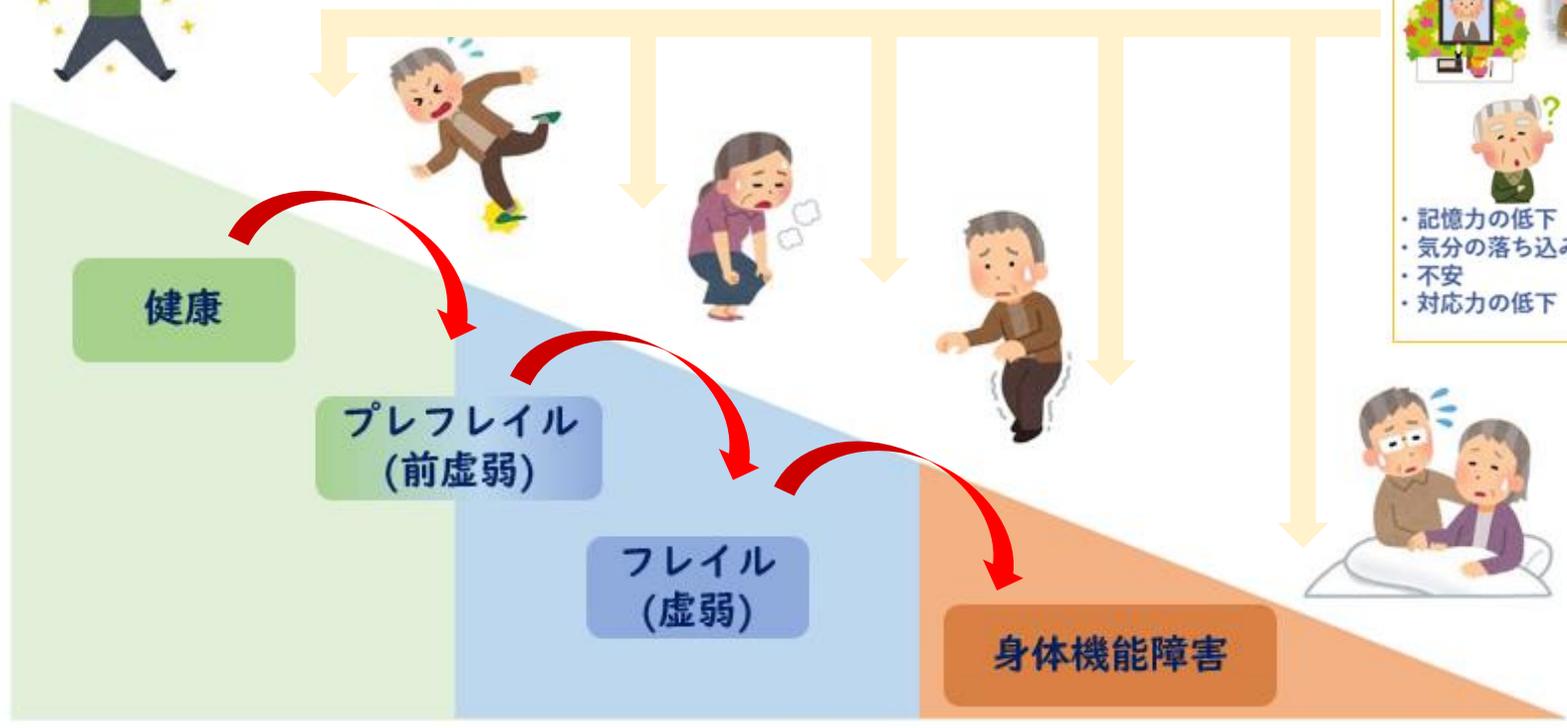
高齢者の健康状態の特性などについて



高齢者の健康状態の特性などについて



(予備能力)

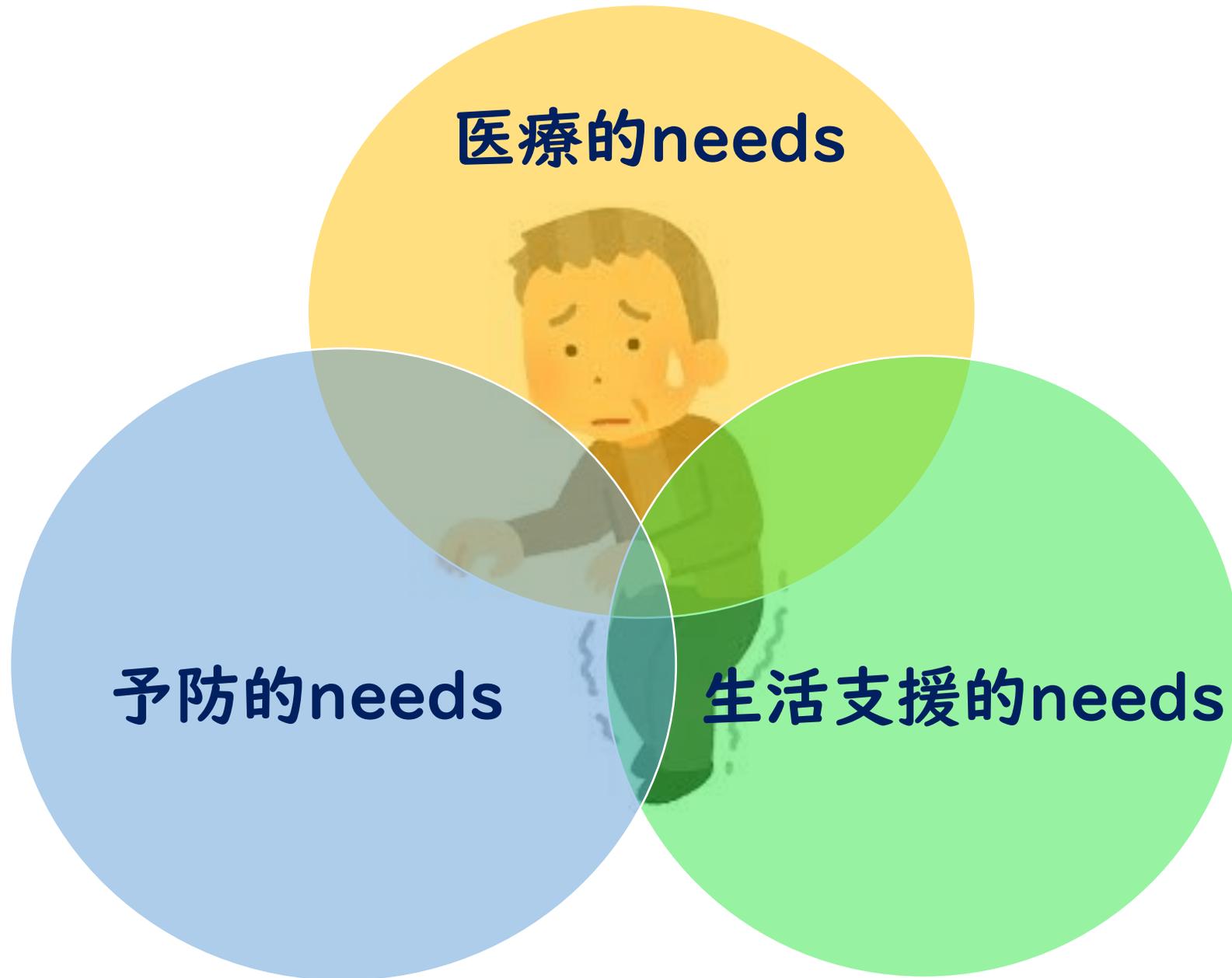


慢性疾患：高血圧・心疾患・脳血管疾患・糖尿病・慢性腎疾患・呼吸器疾患・悪性腫瘍・骨粗鬆症・変形性膝関節症等、生活習慣や加齢に伴う疾患
 老年症候群：認知症機能障害・めまい・摂食嚥下障害・視力障害・うつ・貧血・難聴・せん妄・易感染性・体重減少・サルコペニア等

(参考) 厚生労働省 第149回市町村職員を対象とするセミナー「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について」

(参考) 仙台市 令和4年度フレイル予防についての市民講演会 人生100年時代を元気で乗り切るために－健康長寿の鍵は“フレイル予防”－飯島 勝矢氏

住民の多様なneeds



市町村のありたい姿＝沢山あるありたい姿(生活圏域)の集合体

都道府県



市区町村



市町村のありたい姿



包括

地域のありたい姿



地域の支え合いの推進

地域のありたい姿



認知症になっても住み続けられる

地域のありたい姿



閉じこもりゼロ!!

地域のありたい姿



通いの場の充実、いつまでも元気に!!

地域のありたい姿



在宅介護医療連携の推進
地域の支え合い

“その地域(生活圏域)”が考えるよりリアルな地域特性と課題

都道府県



市区町村



広域的にデータで見える化しながら地域特性・課題を考える

包括



住民のよりリアルな日常生活と想い
そこに住まう住民の変化(身体的、社会的、精神的)
地域資源の具体的な動きや不足している資源



概況や課題のポイント、ターゲットを察知しやすい
日常の支援で無意識のうちに感じている地域課題
こんな資源あったらいいのにな～

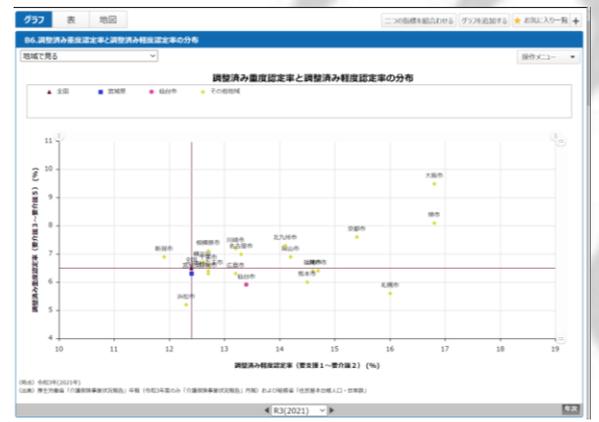
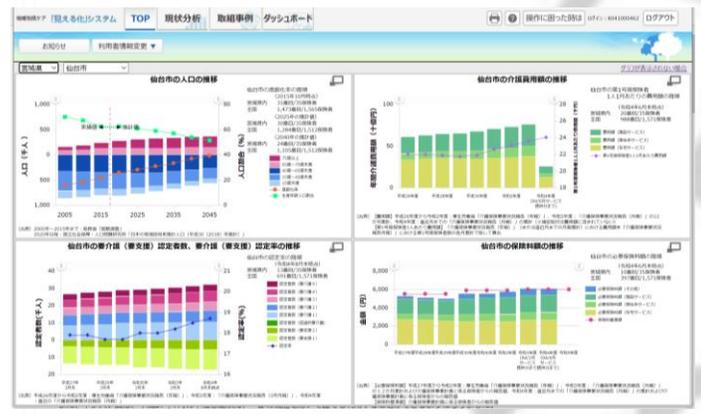
お互いの強みを生かした現状分析(ありがたい姿と現状から課題を見つける)

都道府県・市区町村

地域包括支援センター等

定量的データ

- ・ KDBシステム
- ・ 「見える化システム」
- ・ 各種都道府県策定計画
- ・ 国勢調査 等々



- ・ 地域ケア会議の結果
- ・ 通いの場参加者の声
- ・ 介護予防教室参加者の声
- ・ 認知症カフェ参加者の声
- ・ 地域包括支援センター総合相談
- ・ 協議体の意見
- ・ 生活支援コーディネーターが収集した情報
- ・ ケアマネジャー連絡協議会からの情報
- ・ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査



定性的データ

【 課題(ありがたい姿-現状) 】 をみんなで考える

ありがたい姿
=地域づくり



課題(ありがたい姿-現状)

課題解決するためには・・・

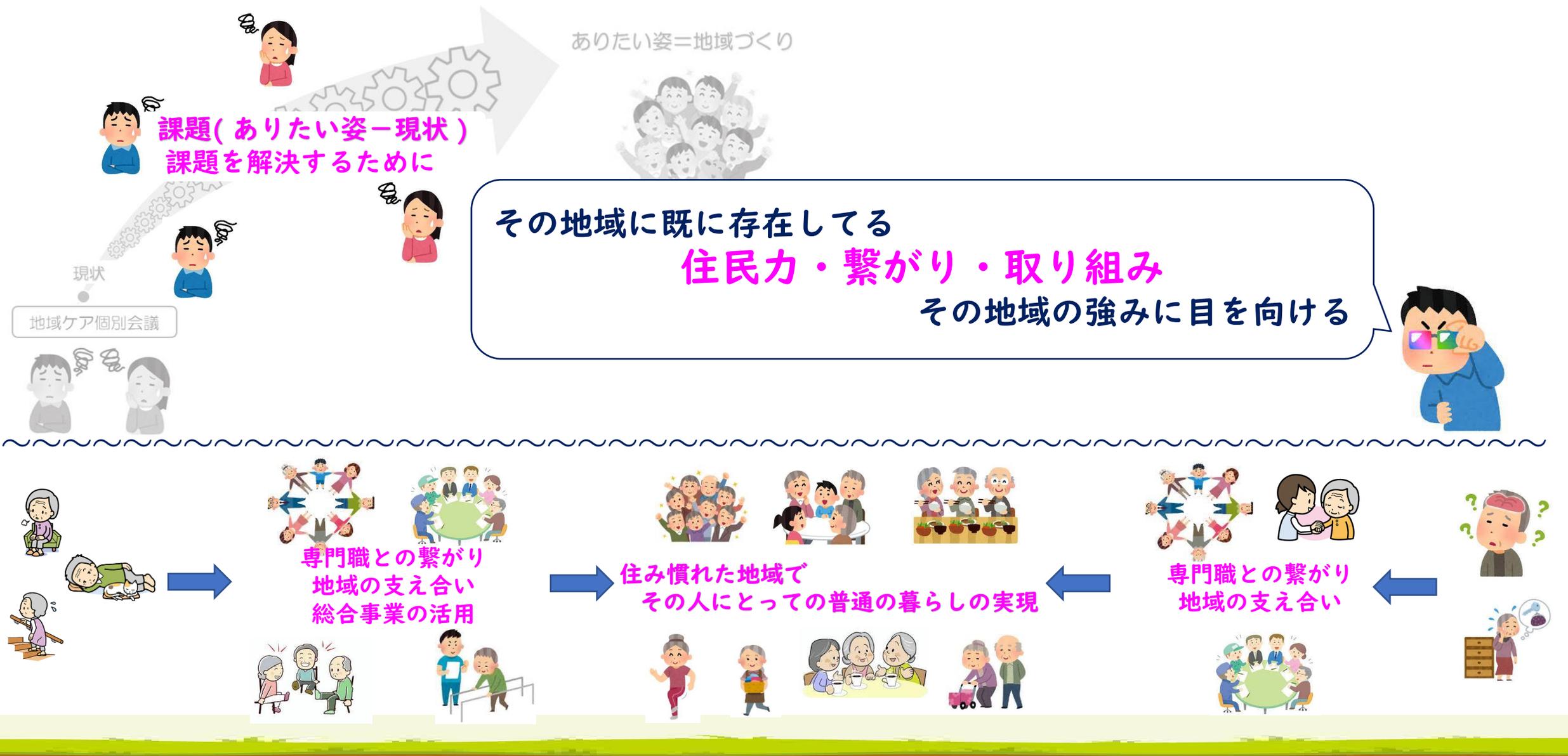
その人(住民)にとって普通の暮らしを続けていくためには・・・

誰か一人が考えるのではなく、みんな、で考える!!

現状



既にある地域の強みにあらためて目を向ける!!



地域支援事業＝手段（多様な手段が繋がりにある）

数ある地域支援事業＝1つの手段(手段は多様)

↓ (何の手段か!?)

住民を元気にするため

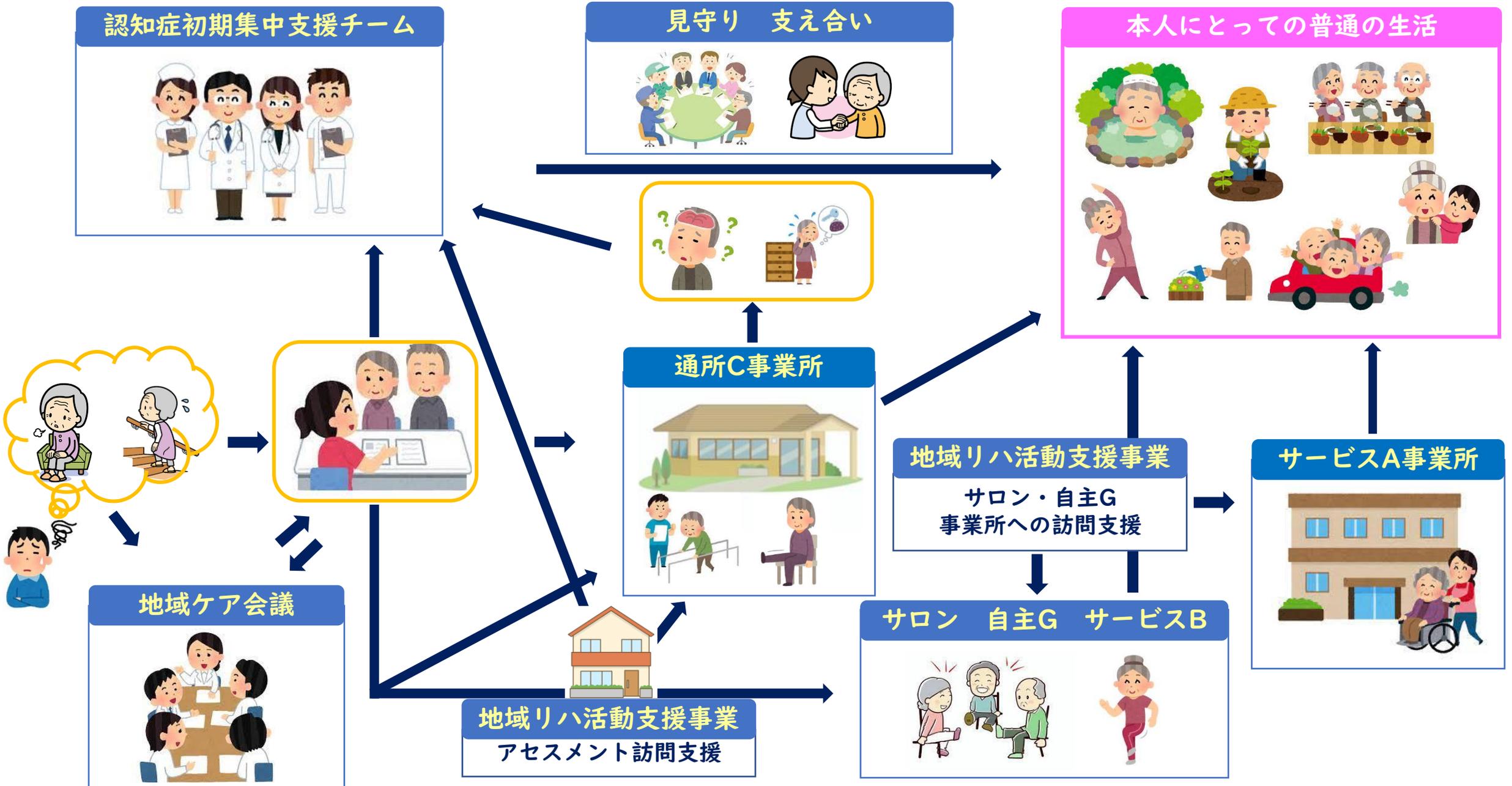
地域のありたい姿を達成するため

↓ (その実際は…)

無意識に繰り返される日常は

様々な手段が繋がりにあって住民を支えている
(関わる人・環境が相互に連動している)

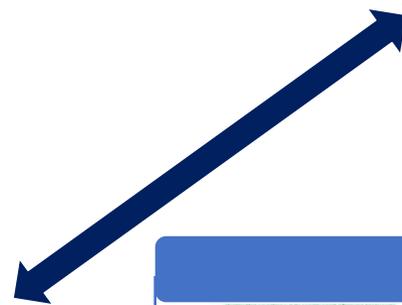
連動性＝どのようにして普通の生活に繋げるか&続けるか、支えるか（私見）



どこで見つけるか（繋げるか）!?

市区町村が考える
ありたい姿、目指していききたい方向性

の共有



地域支援事業＝手段（多様な手段が繋がりにある）とは言え・・・

数ある地域支援事業＝1つの手段(手段は多様)

↓ (何の手段か!?)

住民を元気にするため
地域のありたい姿を達成するため

↓ (その実際は…)

無意識に繰り返される日常は

様々な手段が繋がりにあって住民を支えている
(関わる人・環境が相互に連動している)

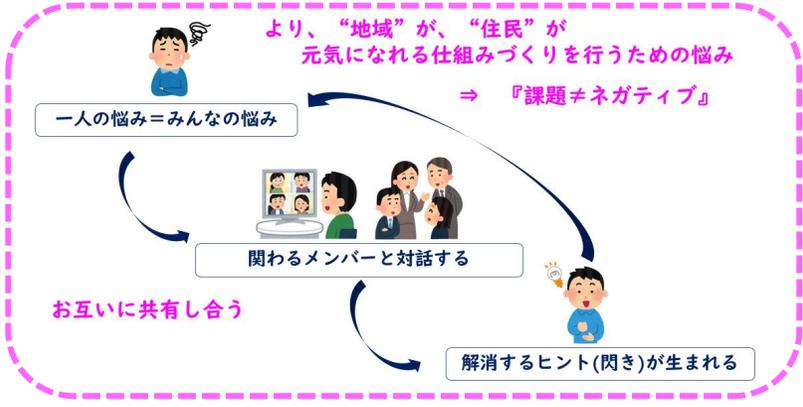
↓ (その裏側で…)

個々の事業における事業担当者の悩み
自部署のみでは解決できない事
他者(専門職等)の協力が必要な事

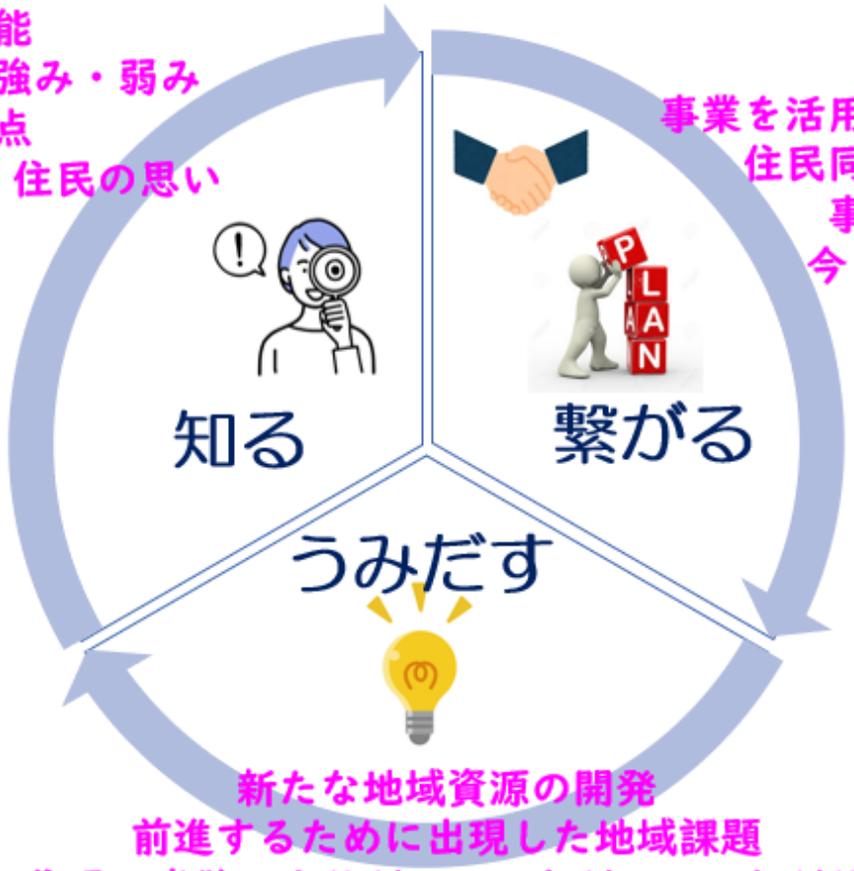
関係者の相互の理解とみんなでうみだす作業

↓ (その裏側で...)

個々の事業における事業担当者の悩み
自部署のみでは解決できない事
他者(専門職等)の協力が必要な事

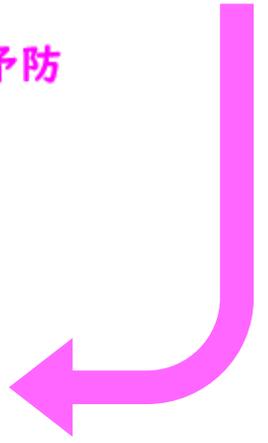


お互いの役割と機能
無意識に感じていた地域の強み・弱み
アセスメントの視点
あらためて自分たちの地域、住民の思い



事業を活用した自立支援・重度化予防
住民同士や地域でのつながり
事業と事業の連動性
今までのアセスメント

新たな地域資源の開発
前進するために出現した地域課題
住民の意欲、やりがい、いきがい、つながり



関係者間で“つながった”事例
(岩手県一関市)

Next 

一関市に関する通所型サービスCにおける現状と課題の整理

現状

①通所Cについて

- (1)実施事業者数：R1⇒5、R2⇒事業実施なし、R3⇒2、R4⇒2
- (2)実利用者数：R1⇒48人、R2⇒事業実施なし、R3⇒15人、R4⇒14人
- (3)内容：1クール15回（週1回×4か月）の中で、運動器・口腔機能向上プログラムを実施。

②SCについて

- (1)配置状況：第1層SC1名（行政職員）、第2層SC6名（専従3名、兼務3名）
- (2)主な取組：第2層SCが、サロンや介護予防教室、民生児童委員定例会等を訪問し、地域課題の掘り起こしや地域資源の発掘を行っている。

課題

①通所Cについて

- ・受託事業者、利用者の確保が難しい。
- ・利用者の確保が難しい中で、短期集中予防である通所型サービスCを同じ利用者が繰り返し利用することについて、判断が難しい。
- ・通所型サービスCの位置づけも整理する必要がある。

②SCの活動について

- ・地域資源の活用方法が分からない。地域を訪問し、良い情報を得ても活用できない。
- ・社会参加していない人に対してどう動いていいか分からない。
- ・そもそも、社会参加していない人にどうやって会うことができるのか。アプローチ方法が分からない。

取り組みたいこと

①通所Cについて

- ・事業者向け意見交換会の実施
⇒実際に受託している事業者が通所Cの取組内容等を発表すれば、他の事業所も通所Cの具体的なイメージもつくと思うので、意見交換会をやってみたいと担当者レベルで考えている。（今年の冬頃予定）

一関市が思う課題 = 通所型サービスCについて

通所型サービスC = 手段



その地域の在りたい姿を達成するために実施される一つ的手段
(対象者の普通の生活を取り戻すための支援)

事業そのもの見直しの前に、その地域の在りたい姿は!?

在りたい姿を達成するための手段としてサービスCをどう活用するか!?

市としての地域の現状分析と包括圏域での地域の実情は!?

講義 & 意見交換



- ・ 伴走支援＝皆さんが主役
- ・ 目指していききたい方向性を共有
→ 手段(事業)をどのように活用するか
- ・ 直営包括による地域の実情について
- ・ それぞれの役割(本庁、SC、包括職員)からみた一関市の課題、特性
- ・ それぞれが思う目指していききたい方向性
- ・ 人事異動により事業担当、課長、課長補佐が今年度から新たに配属された
- ・ これまで包括との意見交換会等の開催はなされていなかった
→ 改めて“チーム一関市”としてのスタート、目指していききたい方向性を共有する

グループワーク

我が市のありたい姿に近づくためのアイデアを関係者全員で出し合う
『ありたい姿』『現状』『課題』『強み』『明日へのアクション』



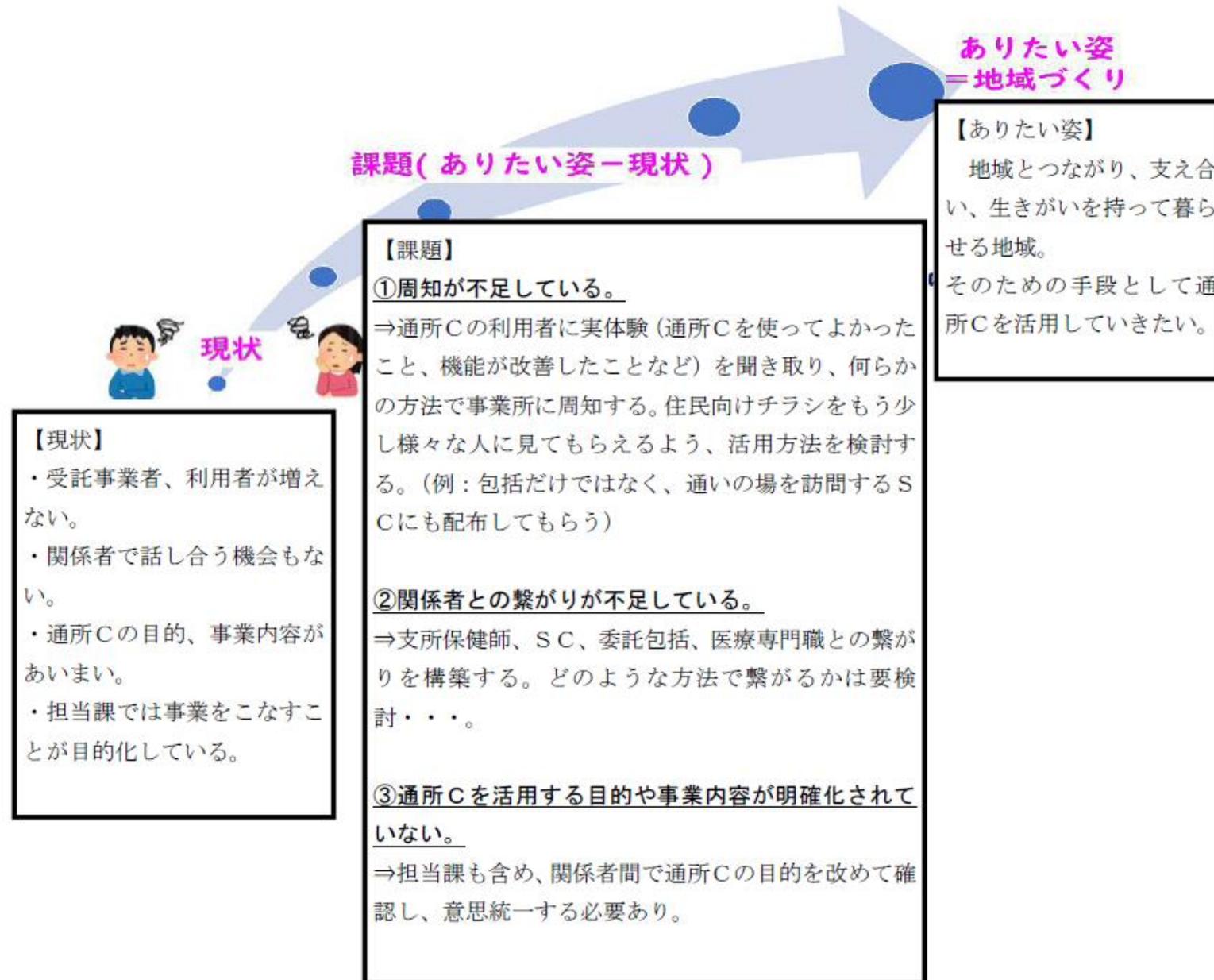
☆グランドルール☆
『住民のために』
『プラス思考・積極思考』
『モノ・カネ・ヒト 度外視』
『お互いの立場は関係なし』

それぞれのグループでの素敵な意見



チーム一関市のメンバーの気づき

- ・ SC自身が悩みながら業務にあたっている現実について改めて確認し、悩みを良い方向へ進んでいく原動力にしていけるよう関係課との調整が必要だと感じた（包括職員）
- ・ 自分の思っている弱みがお人から見ると強みだったり、沢山の発見がありよかった。小さな地域としていろいろな課題を解決していくためには色々な人が集まって対話する機会があると良いと思った（包括職員）
- ・ SCは今よりさらに地域に入って情報週数をする必要がある。そして医療などの専門職と関わる必要性も痛感した。今ある資源を有効に活用したいです（SC）
- ・ 職種が違う事で関わり方も違い参考になった。またそこからSCとしたらどのように関わるのか考えさせられた。地域がこうなれば良いなという理想がとても大事だと再確認した（SC）
- ・ 皆困っていることは同じ、でもうまく繋がれなかった。明日から出来ることがまだまだありそう。一関すてたもんじゃないよ!合意形成は必要!!でもその前に自分を知る（包括職員）
- ・ SCの悩みに気付くことが出来た。またその悩みを包括職員や他のSCに伝えることが出来て良かったと思う。課題が多いと思っていたが、同じくらい強みもあり嬉しい気持ちになった（関係機関）
- ・ 意見交換、G.Wを通じて包括と関わりを持った方が良い事、自分の視点を変えてみたら違うものが見えてくるのではないかと感じた。様々な角度からポジティブに見方を変えて、地域の情報を見つけていきたいと思った(SC)
- ・ 対面の良さを久しぶりに感じて包括から足を運んで良かったなーと思いました。とても刺激的でした(包括職員)
- ・ 考え方をポジティブにという点の考え方も今後物事を考える点では参考になり良かったです。SCとして関係機関とのつながりが薄いことを日々感じていましたが、改めてつながらなければならぬと考えさせられました(SC)





一関市

一関市が考えるありたい姿の共有と各包括圏域の実情
どのようなサービスCであれば一関市で潤いのある高齢者を増やせるか!?



さくらまち
(委託)



一関西部
(直営)



はないずみ
(委託)



しぶたみ
(委託)



一関東部
(直営)



ふじさわ
(委託)

医療専門職 事業所 住民

目線合わせ・意見交換

委託包括、専門職も交えての意見交換会の前に・・・

みんなで同じ目線で同じ方向を向くために



岩手県より

『岩手県の地域リハの状況と専門職の活用について』
(県も一緒に考えて、支援していきます!!)



一関市事業担当者より

『現状の課題とありがたい姿、サービスCについて』
(みんなでより良い地域にしていきたい!!)



厚生労働省、アドバイザーより

『今回の事業でどんな事をみんなで共有したいか』
(住民も含めて皆さんが主役の地域づくりをお手伝いします!!)

目線合わせ・意見交換

『一関市のありたい姿の共有と各圏域のあるありたい姿』
『各包括圏域の実情』



グループワーク

『通所C型を知ってもらうためにはどうしたら良いか』
『通所C型を実施するうえで関係者の関わり方』
『活用しやすい通所C型って!?!』
どんなヒト・どんなコトと繋がりがあれば良いか



☆グランドルール☆

『住民のために』

『プラス思考・積極思考』

『モノ・カネ・ヒト 度外視』

『お互いの立場は関係なし』

“分からない・知らない”ではなく、“教えて!一緒にできる事は!?”

それぞれのグループでの素敵な意見



第2回目支援：ありがたい姿の共有とサービスCについて

それぞれのグループでの素敵な意見

② グループワーク

テーマ：通所C型を知ってもらうためにはどうしたら良いか
 通所Cを実施するうえでの関係者の関わり方
 活用しやすい通所C型って？

※マーク
 → 重複している意見

【Aグループ】

(1)知ってもらうためには	<p>【啓蒙・啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※・バス、タクシー、病院、市民センター、福祉用具の業者にチラシを設置 ※・説明会の実施（民児協、事業所、自治会、サロン） <ul style="list-style-type: none"> ・イオンのイベントブースで告知イベントを実施 <p>【見える化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※・チラシに写真を掲載する ※・通所Cの見学会実施 ※・動画を作成し、紹介する <p>【親しみやすいネーミング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※・覚えやすい名称にする、地区によって名前を変える
(2)関係者の関わり方	<p>【地域から得たい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※・サロンに出向き、繋がりそうな高齢者を把握する。市民センター、老人クラブ、区長、自治会長から情報提供してもらう。 <ul style="list-style-type: none"> ・S Cの訪問報に包括も同行する <p>【専門職への周知と協力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※・主治医や病院関係者から紹介してもらう ※・従事する専門職との目線合わせを行う ※・リハ職からアドバイスをもらう（こんなメニューができればありがたいことやれるよ）
(3)活用しやすい通所Cとは	<p>【仕様書を変える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※・通年実施とする（農業などもあるため、好きなタイミングで使えるように） <ul style="list-style-type: none"> ・交流しやすいようにカフェ的な雰囲気があると楽しそう <p>【利用場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※・介護事業所以外の場所でもできればいい <ul style="list-style-type: none"> ・空き家でやる <p>【メニュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーダーメイドメニュー、その人の「なりたい」に応えるメニュー <p>【終了後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業終了後に地域への移行期間として相談できる（居）場所があること ・フォロー体制が充実していること <p>⇒途切れない支援の継続を！（事業所への訪問、過去の利用者の追跡など）</p>

【Bグループ】

(1)知ってもらうためには	<ul style="list-style-type: none"> ※・自治会長、区長、民生委員、保健推進委員、地区（回覧板）に周知する ※・病院、市民センター、図書館にチラシを配る ※・広報で特集を組む ※・FMあすもで周知する <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険申請時に窓口で情報提供する ※・認定結果通知にチラシを同封する ※・事業名称を変更し、愛称を募集する ※・チラシを配布するだけでなく、説明する ※・紹介用DVDがあるとよい
(2)関係者の関わり方	<ul style="list-style-type: none"> ※・関係者＝医介連（主治医、医療ソーシャルワーカー、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士）、家族、地域の集いの場、S C、支所保健福祉課、保健師 ※・情報交換の場が必要
(3)活用しやすい通所Cとは	<ul style="list-style-type: none"> ※・通年開催 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回ではなくてもいいので理学療法士がいること ・送迎があること（健康マイレージのポイントを活用できないか？） ※・お試して利用できること <ul style="list-style-type: none"> ・出張C

【Cグループ】

(1)知ってもらうためには	<p>【住民への周知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※・介護保険の認定結果に案内を同封する ※・市広報、FMあすも、QRコード、回覧板を活用して周知する ※・地域ごとに説明会を実施する（民児協等を活用） ※・病院へチラシを掲示。医療連携室と連携し、退院後の選択肢のひとつとする <p>【事業所への周知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※・説明会を実施し、実施するメリットを伝える。収益も提示する <ul style="list-style-type: none"> ・人手不足のため、単一事業所ではなく、合同実施とする ※・通所事業所以外の施設（ジム等）にも周知する
(2)関係者の関わり方	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり課の一体化事業との連携。健診結果から対象者を抽出する ・シルバー人材センターやシニア活動プラザにも周知を協力してもらう ※・主治医から紹介してもらう ※・今日のような打合せを行い、関係者同士顔の見える関係でありたい
(3)活用しやすい通所Cとは	<ul style="list-style-type: none"> ※・ネーミングが悪いので名称を変更する ※・通年実施 <ul style="list-style-type: none"> ※・行きやすいところにある（イオン：カーブス） <ul style="list-style-type: none"> ・送迎できないところはタクシー会社と連携する ※・お試し制度を作る。「とりあえず参加してみよう」 ・終了時の記念品の配布

A・Bグループ
 (1)と重複

チーム一関市のメンバーの気づき

- ・意見交換会を通じて支援する地域の特性を振り返って考え地域のニーズに合った関わり方を考えなければならぬと感じた(包括職員)
- ・専門職の意見が聞けて良かった(SC)
- ・通所Cのネーミングを変えることは発想になかった。病院の協力をもらう事は良いことだと思う(本人-主治医の信頼感絶大!?) 人材不足の問題を何とか解消したい。思い切ったことをやってみたい!!(出張Cは良い!!)(市町村職員)
- ・通所Cだけではなく多くの方と関わる事で包括の役割を改めて考えさせられた。住みやすい地域づくりが大事と再認識した(包括職員)
- ・一関、各々の地域の課題を明確にし、少しでも前進できると良いなと思いました。他職種からの意見や行政の取り組みも知らない事が多く勉強になりました。この場で吸収できた事を還元していきたい(医療専門職)
- ・1回目にも感じたが、まだまだ出来ることがあることが嬉しかった(包括職員)
- ・市の高齢福祉において1つの手段である通所Cを皆さんと語れたことは大変嬉しい。通所Cを改めて内容を検討してみたい(市町村職員)
- ・多様な関係者と「つながる」を今後も意識して地域を回りたいと思います(SC)
- ・SC、行政、包括で関わりを深める(情報共有の場をエリア毎に行う)事の大切さ通所Cを様々な機関に知ってもらう事が大切(包括職員)
- ・1回目もそうだったが2回目もグループそれぞれのアイディアがあり、話し合う人、話し合う回数があるだけ、より良くなっていくのだな～と実感した(SC)
- ・以前サービスCを利用した方が、とても楽しく元気に利用されていたので、いまはどうしているかなと思う事があります。「途切れない支援の継続」はとても大切なことだなと思いました。自分もこういうサービスCなら参加してみたい!と思えるサービスCが出来るように、また考えていきたいと思いました(包括職員)
- ・支援を行うからには、その時だけではなく支援の前後での支援も大切だという事に気付いた。リハ職の方もいらっしやたので、そちらの視点の意見も聞くことができ勉強になった(関係機関)
- ・リハ職の方ともっとつながりたい、情報共有できるような場があれば良いなと感じました。すべての地域資源は「つながる」上での必要なもの。それらをつなげるには専門職や行政の連携が必要と改めて感じました。SCとしてももっと地域を歩き、資源を把握していきたい! SCとしてのモチベーションupにつながりました!(SC)

①共通している意見

<p>(1)知ってもらうためには</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシを工夫する（写真の掲載等）、住民へ広く周知する（公共施設やタクシー等にチラシを設置する、民児協等を活用し、説明する、FMあすも・市広報等を活用する、介護保険の認定結果にチラシを同封）● ・事業所向けへの周知（説明会の開催）▲ ・通所Cの見学会実施 ▲ ・動画を作成し、紹介する ▲ ・事業名を変更する ▲ ・通所事業所以外の施設（ジム等）にも周知する ▲
<p>(2)関係者の関わり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンに出向き繋がりそうな高齢者を把握する。住民から情報提供してもらう▲ ・主治医や病院関係者から事業を紹介してもらう ▲ ・庁内関係者(保健師、支所保健福祉課、SC等)との情報共有(交換)、目線合わせの場が必要 ▲ ・外部関係者(医師、理学療法士等の専門職、家族、地域の集いの場)との情報共有(交換)、目線合わせの場が必要 ▲
<p>(3)活用しやすい通所Cとは</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護事業所以外の場所で実施する（イオンや近所など）▲ ・仕様書を変更し、通年開催とする ● ←<u>予算多めに確保しているため対応可</u> ・お試して利用できること ●

*グループワークで出た意見について、「共通している意見」「共通していない意見」に分類。

*「即自的に取り組めること（●マーク）」、「他者、他部署の協力がなくてできないこと（▲マーク）」に分類。

*共通していない意見については、「共通した意見が少ない＝必要性が低い」ではなく、灯台下暗し的な発想、発想の転換になる意見と捉えています。

②共通していない意見

(1)知ってもらうためには	<ul style="list-style-type: none"> ・イオンのイベントブースで告知イベントを実施 ▲ ・介護保険申請時に窓口で情報提供する ● ・単一事業所ではなく、合同実施とする ● ←同一法人であれば過去実績あり
(2)関係者の関わり方	<ul style="list-style-type: none"> ・SCの訪問時に包括も同行する ● ・健康づくり課の一体化事業との連携。健診結果から対象者を抽出する ▲ ・シルバー人材センターやシニア活動プラザにも周知を協力してもらう ▲
(3)活用しやすい通所Cとは	<ul style="list-style-type: none"> ・交流しやすいようにカフェ的な雰囲気があると楽しそう ▲ ・空き家でやる ▲ ・オーダーメイドメニュー、その人の「なりたい」に応えるメニューとする ▲ ・事業終了後のフォロー体制が充実していること ▲ ・毎回ではなくてもいいので理学療法士がいること ▲ ・送迎があること（健康マイレージのポイントの活用、タクシー会社と連携）▲ ・出張C ▲ ・終了時の記念品の配布 ▲

*グループワークで出た意見について、「共通している意見」「共通していない意見」に分類。
 *「即自的に取り組めること（●マーク）」、「他者、他部署の協力がないとできないこと（▲マーク）」に分類。
 *共通していない意見については、「共通した意見が少ない＝必要性が低い」ではなく、灯台下暗し的な発想、発想の転換になる意見と捉えています。

③優先順位や具体的役割等の検討

(1)知ってもらうためには			
優先順位	業務名	●or▲	行動目標
1	事業名の変更	▲	来年1月まで：他自治体を参考にしながら担当課で事業名（案）を検討する 来年2月まで：関係課から意見等を聞き、来年度の事業名を決定する
2	チラシの工夫	●	来年2月まで：事業所に写真の提供を依頼する、包括に機能が改善した利用者の情報を聞き取る 来年3月まで：他自治体の例も参考にしながらチラシ修正を完了させる （実施事業者名は空欄のままとする）
3	住民への周知	●	事業所決定後：該当地域の民児協で事業を周知する。 市民センターにチラシを設置する。 認定結果にチラシを同封するよう介護保険課へ依頼する。 事業対象が全地域にわたる場合は、広報も活用する

* 「即自的に取り組めること（●マーク）」、「他者、他部署の協力がないとできないこと（▲マーク）」に分類。

③優先順位や具体的役割等の検討

(2)関係者の関わり方			
優先順位	業務名	●or▲	行動目標
1	庁内関係者との情報共有	▲	<p>【中長期】</p> <p>来年5月：事業の募集開始後、説明会を実施する (事業の趣旨説明、周知依頼、希望者がいた場合は包括へ連絡するよう依頼)</p> <p>事業所決定後：担当地域の保健師、SCへ連絡し、周知を依頼する。 健診結果から対象者を抽出することが可能か健康づくり課へ確認する。</p>
2	外部関係者との情報共有	▲	<p>【中長期】</p> <p>来年5月：事業の募集開始後、包括・事業所・居宅向けの説明会を実施する。事業実施のメリットも併せて説明する。同時に、専門職に講師を依頼し高齢者の身体機能に関して講話をしていただく。</p> <p>事業所決定後：主治医等には、医師会経由で事業を周知する。理学療法士等の専門職の派遣を検討する(派遣が可能であり、事業所が受け入れを希望する場合)</p>

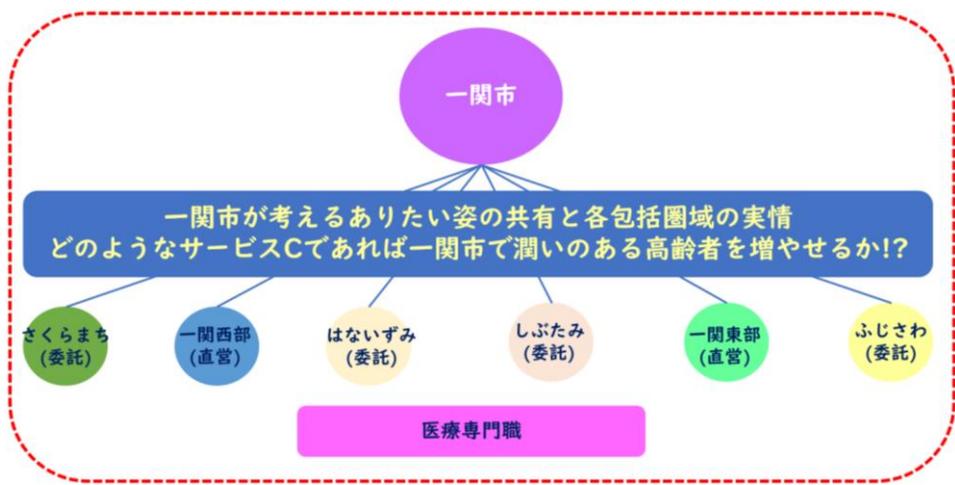
* 「即自的に取り組めること(●マーク)」、「他者、他部署の協力がないとできないこと(▲マーク)」に分類。

③優先順位や具体的役割等の検討

(3)活用しやすい通所Cとは			
優先順位	業務名	●or▲	行動目標
1	通年開催	●	12月まで：募集要領を修正する。募集期間を延長し、事業所のタイミングで実施できるよう変更する (募集期間4月～5月を4月～11月に修正) HPでの周知も延長する
2	お試して利用できること	●	来年3月まで：お試して利用できることについてチラシに掲載する
3	介護事業所以外の場所での実施	▲	【中長期】 来年5月：事業の募集開始と同時にスポーツ施設（カーブス）へ訪問し、事業の紹介を行う。 * 「送迎が難しいので対応不可」と言われた場合は、タクシー会社との連携の検討、他自治体からの事例収集、公共交通担当との打合せ・・・等の実施

* 「即自的に取り組めること（●マーク）」、「他者、他部署の協力がないとできないこと（▲マーク）」に分類。

これまで全体像を俯瞰して、つながりと閃きを見つけた



そこに住まう住民をみんなで支援していく!
 より良い地域づくりだよね!
 こんな繋がりあれば良いよね!
 専門職との連携大事!

第1回目支援：Ikkanshiが考えるありたい姿の共有(本庁・直営包括)

我が市のありたい姿に近づくためのアイデアを関係者全員で出し合う
『ありたい姿』『現状』『課題』『強み』『明日へのアクション』



- ☆グランドルール☆
- 『住民のために』
- 『プラス思考・積極思考』
- 『モノ・カネ・ヒト 度外視』
- 『お互いの立場は関係なし』

それぞれのグループでの集約した意見



第2回目支援：ありたい姿の共有とサービスCについて(本庁、直営・委託包括、専門職)

『通所C型を知ってもらうためにはどうしたら良いか』
 『通所C型を実施するうえで関係者の関わり方』
 『活用しやすい通所C型って!?』
 どんなヒト・どんなコトと繋がりがあれば良いか



- ☆グランドルール☆
- 『住民のために』
- 『プラス思考・積極思考』
- 『モノ・カネ・ヒト 度外視』
- 『お互いの立場は関係なし』
- “分からない・知らない”ではなく、“教えて一緒にできる事は!?”



一つの事業(C型)を主語としても、その先にいる住民を支援する際に様々な繋がりが必要!

通所C型を活用して元気になれる人ってどんな人!?

その人を誰がどうやって見つける(誘導する)!?

『どんな人をどのように誘導して、元気にしていくか!?!』
『一関作戦にいかに住民を巻き込んで(のせて)いくか!?!』

Before

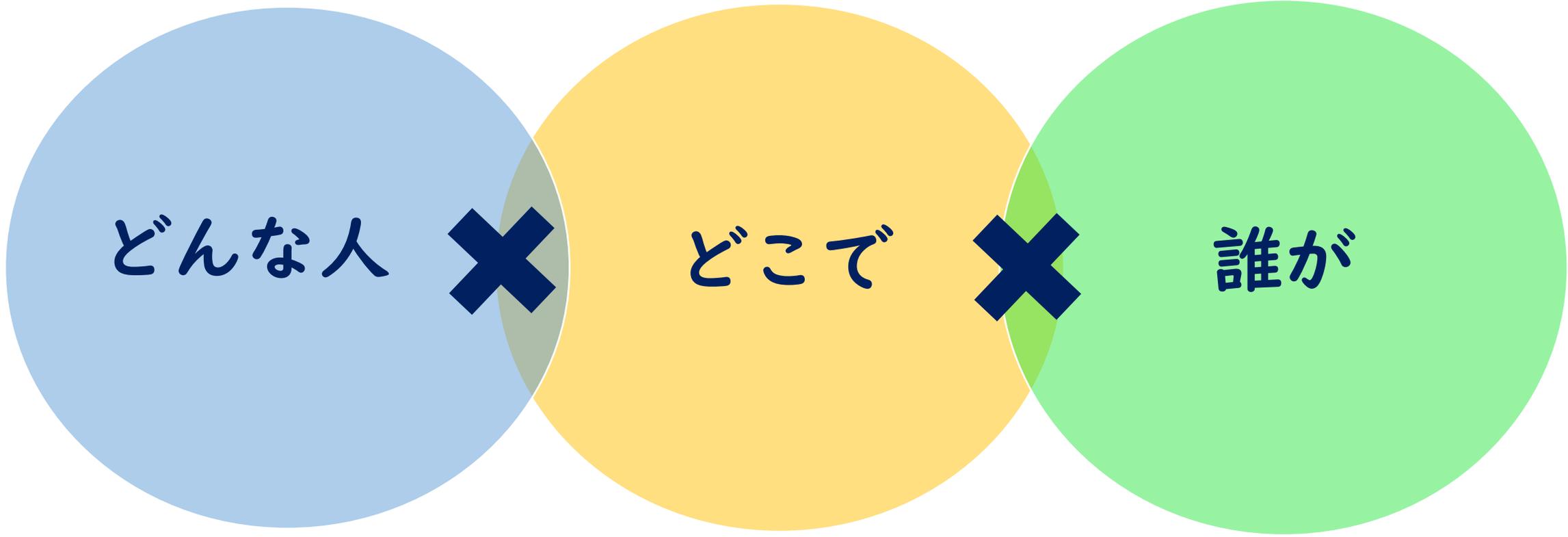


After



The future beyond





メンバーそれぞれからの意見が、他者からすると違った角度で見てくる
様々な角度からみると、より広い視点で捉えられる

グループワーク

通所C型を活用して元気になれる人ってどんな人!?

その人を誰がどうやって見つける(誘導する)!?

『どんな人をどのように誘導して、元気にしていくか!?!』

『一関作戦にいかに住民を巻き込んで(のせて)いくか!?!』



都道府県・市区町村

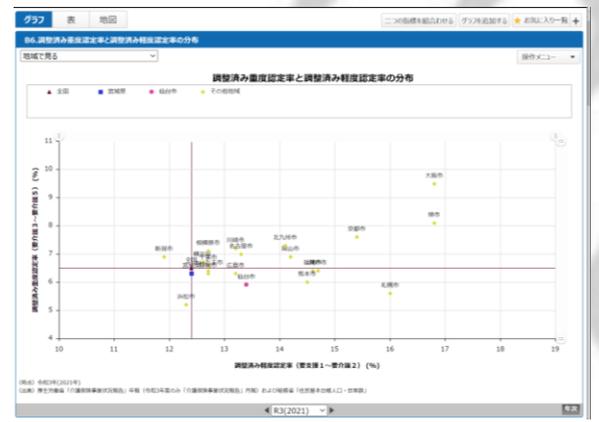
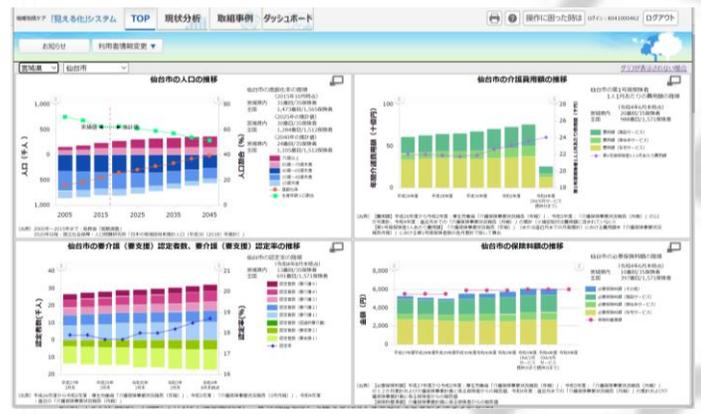
地域包括支援センター等

定量的データ

定性的データ

- ・ KDBシステム
- ・ 「見える化システム」
- ・ 各種都道府県策定計画
- ・ 国勢調査 等々

- ・ 地域ケア会議の結果
- ・ 通いの場参加者の声
- ・ 介護予防教室参加者の声
- ・ 認知症カフェ参加者の声
- ・ 地域包括支援センター総合相談
- ・ 協議体の意見
- ・ 生活支援コーディネーターが収集した情報
- ・ ケアマネジャー連絡協議会からの情報
- ・ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査



都道府県



市区町村



広域的にデータで見える化しながら地域特性・課題を考える

包括



住民のよりリアルな日常生活と想い
そこに住まう住民の変化(身体的、社会的、精神的)
地域資源の具体的な動きや不足している資源



概況や課題のポイント、ターゲットを察知しやすい
日常の支援で無意識のうちに感じている地域課題
こんな資源あったらいいのにな～

【 課題(ありがたい姿-現状) 】をみんなで解決していく

投影のみ

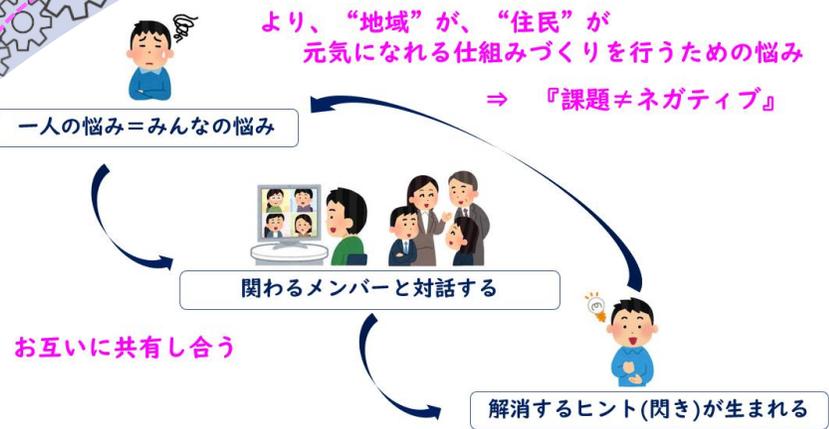
ありがたい姿=地域づくり



課題(ありがたい姿-現状)
課題を解決するために

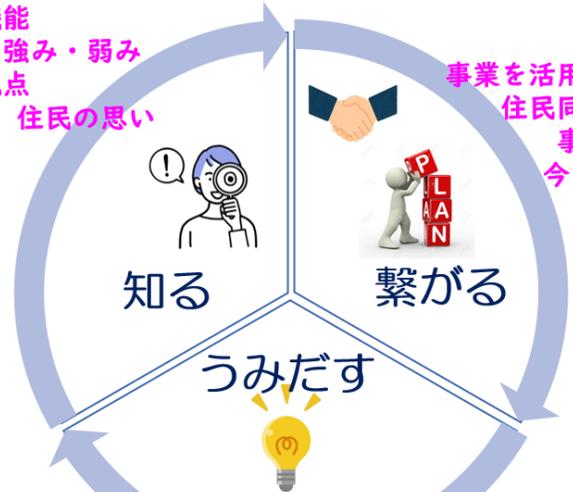


現状



より、“地域”が、“住民”が
元気になれる仕組みづくりを行うための悩み
⇒ 『課題≠ネガティブ』

お互いの役割と機能
無意識に感じていた地域の強み・弱み
アセスメントの視点
あらためて自分たちの地域、住民の思い



事業を活用した自立支援・重度化予防
住民同士や地域でのつながり
事業と事業の連動性
今までのアセスメント

新たな地域資源の開発
前進するために出現した地域課題
住民の意欲、やりがい、いきがい、つながり



一つの課題について関係者と共有する



それぞれ違った角度からの視点
(“知る”)



これまでの取り組みの振り返り
(“つながる”)



その地域の強みやどのようにして地域資源を活用するか!?
どのようにして “人” と繋がれるか!?
(“うまれる”)

ご清聴ありがとうございました

グループワーク
(14:25~16:15 110分)

Next 

地域支援事業＝手段（多様な手段が繋がりにある）とは言え・・・

数ある地域支援事業＝1つの手段(手段は多様)

↓ (何の手段か!?)

住民を元気にするため
地域のありたい姿を達成するため

↓ (その実際は...)

無意識に繰り返される日常は

様々な手段が繋がりにあって住民を支えている
(関わる人・環境が相互に連動している)

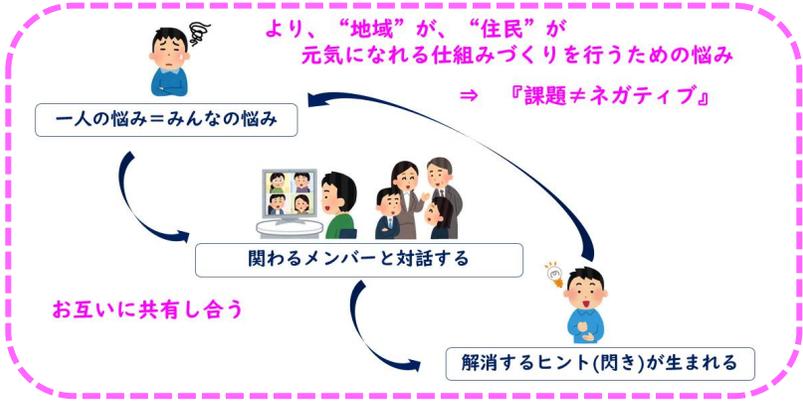
↓ (その裏側で...)

個々の事業における事業担当者の悩み
自部署のみでは解決できない事
他者(専門職等)の協力が必要な事

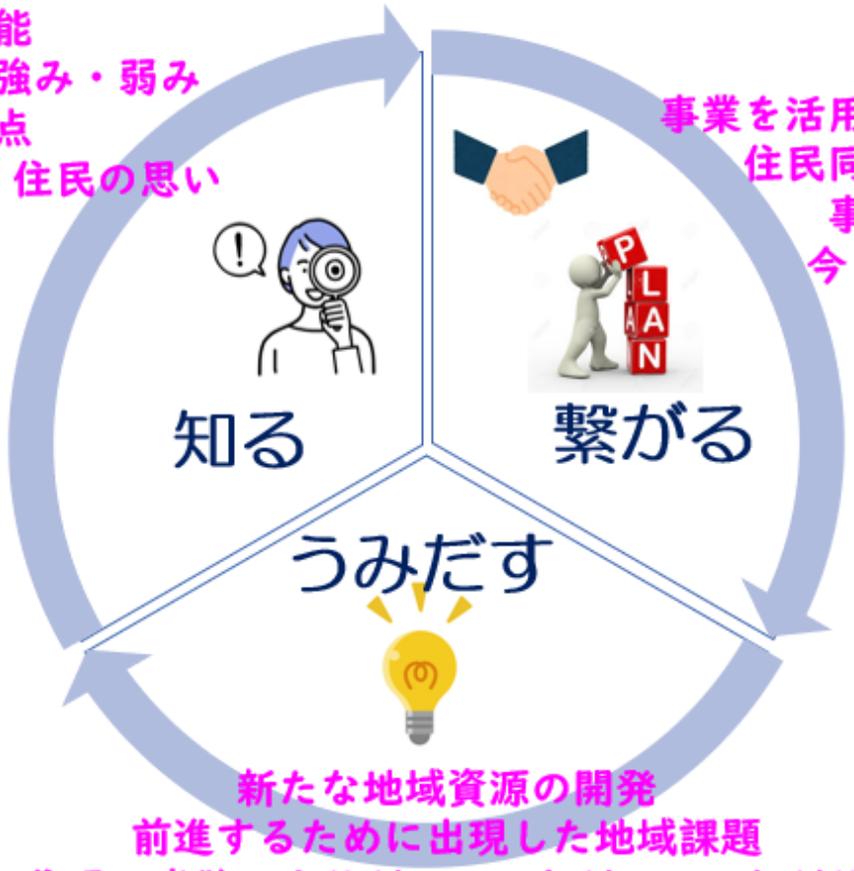
関係者の相互の理解とみんなでうみだす作業

↓ (その裏側で...)

個々の事業における事業担当者の悩み
自部署のみでは解決できない事
他者(専門職等)の協力が必要な事

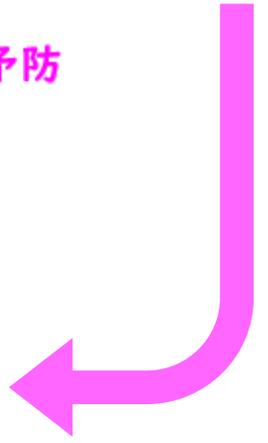


お互いの役割と機能
無意識に感じていた地域の強み・弱み
アセスメントの視点
あらためて自分たちの地域、住民の思い



事業を活用した自立支援・重度化予防
住民同士や地域でのつながり
事業と事業の連動性
今までのアセスメント

新たな地域資源の開発
前進するため出現した地域課題
住民の意欲、やりがい、いきがい、つながり



- ワーク1（個人ワーク）

現在ご自身が携わっている事業で、困っていることを挙げてみましょう

- ワーク2（個人ワーク）

ご自身の自治体のありたい姿、現状、課題、強みをかんがえてみましょう

- ワーク3（グループディスカッション）

自身の困りごとと自治体の状況についてグループ内で共有しましょう

- ワーク4（グループディスカッション）

自治体の強みも踏まえ、事業が繋がっているものがあれば紹介しましょう

- 発表

グランドルール(個人ワーク)

●ワーク1 (個人ワーク)

現在ご自身が携わっている事業で、困っていることを挙げてみましょう

●ワーク2 (個人ワーク)

ご自身の自治体のありたい姿、現状、課題、強みをかんがえてみましょう

自身が抱えている悩みや現状を赤裸々に綴って下さい

ありたい姿については

『住民のため』『プラス思考・積極思考』『ヒト・カネ・モノは度外視』
でイメージを膨らませて自由に考えてください
(【ありたい姿ー現状＝課題】であること【個人の悩み≠地域の課題】)

地域の強みについては『どんなもんだい!!うちの地域!!』の意識

グランドルール(グループディスカッション)

●ワーク3 (グループディスカッション)

自身の困りごとと自治体の状況についてグループ内で共有しましょう

●ワーク4 (グループディスカッション)

自治体の強みも踏まえ、事業が繋がっているものがあれば紹介しましょう

『お互いの立場は関係なし!!』

自身が抱えている悩みを表出し、それをお互いに共有しましょう

表出されたものに対して提案しあいましょう

(他者の悩みを自身の悩みと置き換えて、我がまちだったどう解決できる!?)

(既にこんな取り組みをしているよ!!)

グランドルール(グループディスカッション)

うちの自治体だとこんな感じでケア会議を活用して、誘導しているか~!

ケア会議



総合事業

通いの場へ地域リハ活動支援事業で専門職を活用するのも良いかも!?



認知症施策



家族の理解や民生員さん、町内会長さんとかもキーマンかも!? 沢山情報持っている!

生活支援体制整備



うちでは、こんな感じで支え合いを活用して、ボランティアに参加してもらってるよ!

通所Cでなかなか人集まらない・・・
地域に参加できていない気が・・・

在宅医療介護連携



医療機関の●●と繋がるのはどうかな!? そこから誘導してもらったり・・・でも医療機関の理解も大事だよ!

グランドルール(グループディスカッション)

認知症施策

家族の理解や民生員さん、町内会長さんとかもキーマンかも!? 沢山情報持っている!

うちの自治体だとこんな感じでケア会議を活用して、誘導しているか~!

ケア会議

生活支援体制整備

なるほど!! その手があったか!!!

うちでは、こんな感じで支え合
活用して、ボランティアに
してもらってるよ!

総合事業

在宅医療介護連携

通いの場へ地域リハ活動支
援事業で専門職を活用する
のも良いかも!?

医療機関の●●と繋がるのはどう
かな!?そこから誘導してもらった
り・・・でも医療機関の理解も大
事だよ!



全体総括
(16:15~16:25 10分)

Next 

【 課題＝ありたい姿-現状 】 をみんなで考える

ありたい姿
＝地域づくり



課題(ありたい姿－現状)

課題解決するためには・・・

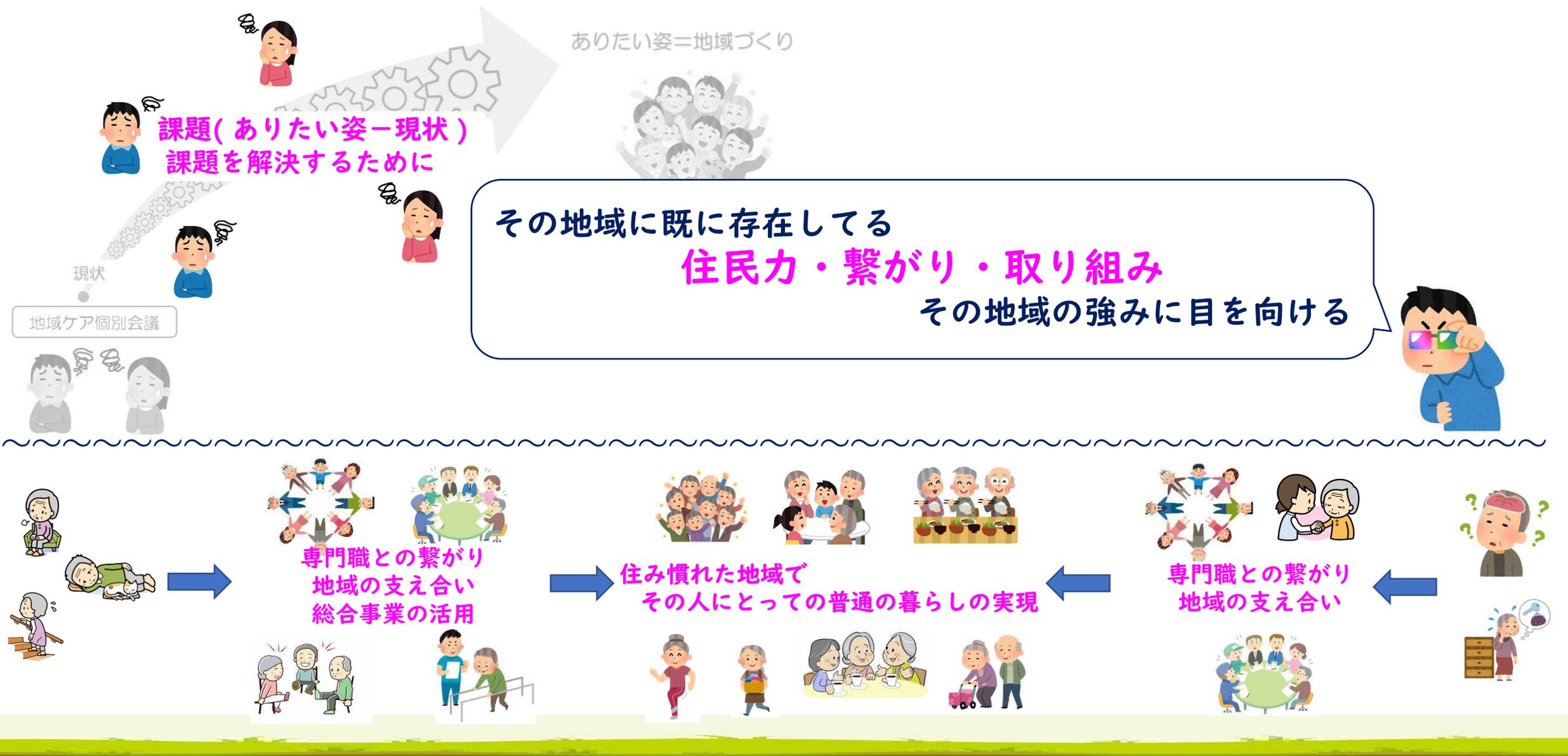
その人(住民)にとって普通の暮らしを続けていくためには・・・

誰か一人が考えるのではなく、みんな、で考える!!

現状



既にある地域の強みにあらためて目を向ける!!



答えは、我がまちにある!!

(むしろその市町村にしか答えがない!!)

そして、連動させるツールはすでにある!!

(素敵な資源がたくさんある!!)

【 課題＝ありたい姿-現状 】をみんなで解決していく

ありたい姿＝地域づくり



課題(ありたい姿-現状)
課題を解決するために



現状



ワンチームによる地域づくり

◎より良い地域づくりをしていきたい方向性是一緒◎

そこに住まう**住民**と常に支援している**包括職員・事業所**

間接的に支援する**専門職**、施策形成に関わる**保険者**

ワンチームで地域作りを行う



長時間お付き合い頂きありがとうございました！！